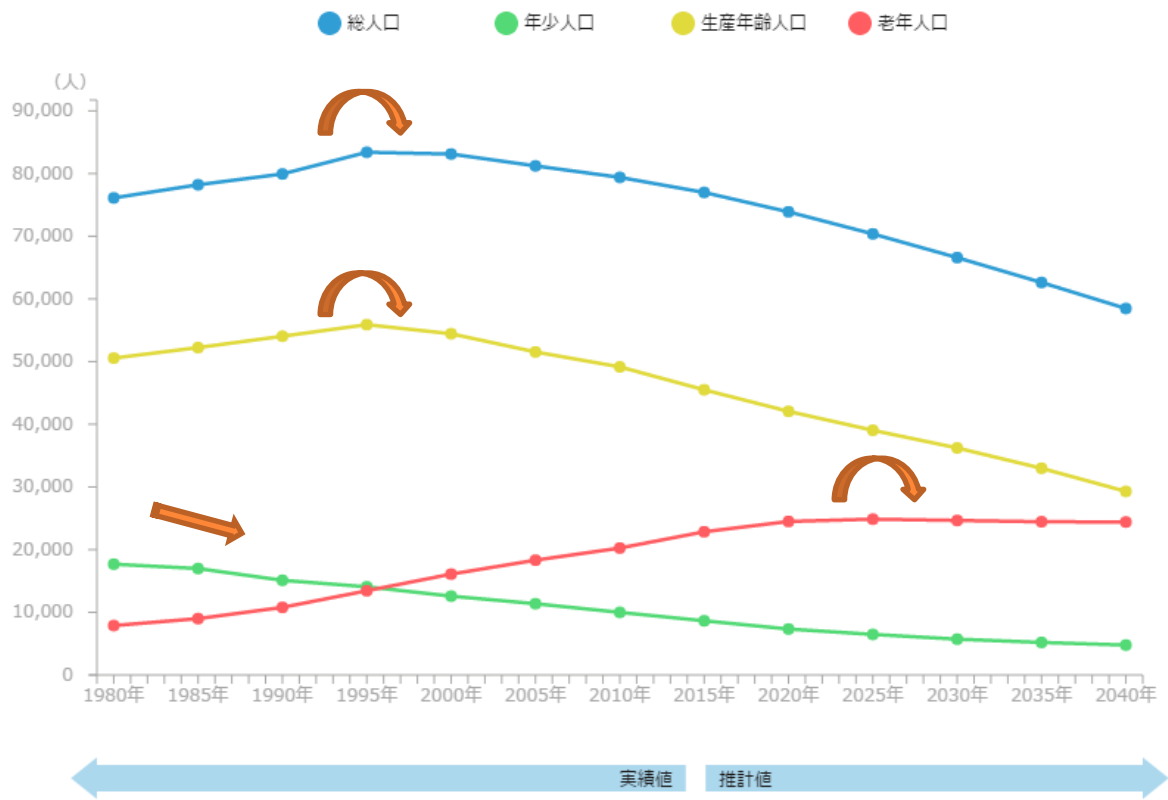




石岡市の人口減少問題について

平成27年6月12日
市長公室政策企画課

石岡市の人口推計について



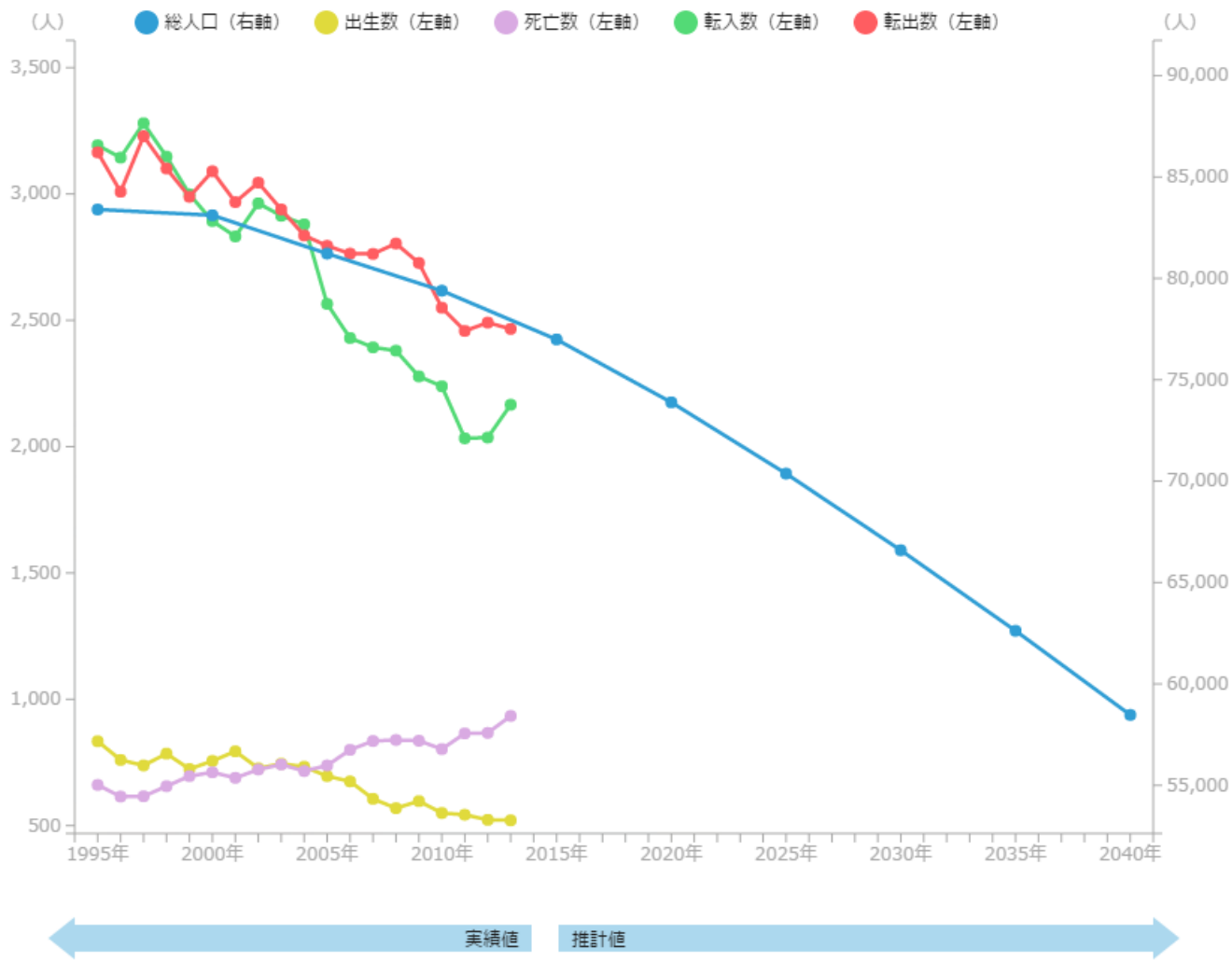
石岡市の人口は、1995年に最大人口の83,398人となったのち、減少しています。

この人口減少が継続すると、**2040年には58,471人**となる見込みです。

年齢3区分別の人口をみると、年少人口は1980以前から減少し続けています。生産年齢人口は1995年に最大人口となり、その後減少しています。老年人口は、2025年まで増加をしていますが、その後は減少し、**2030年には、全年齢区分の人口が減少**する見込みです。

年齢区分	1995年 (人口ピーク)	2010年 (直近の人口)	2040年 (推計人口)
年少人口	14,071 (16.8%)	9,989 (12.5%)	4,772 (8.1%)
生産年齢人口	55,892 (67.0%)	49,156 (61.9%)	29,290 (50.0%)
老年人口	13,435 (16.1%)	20,249 (25.5%)	24,409 (41.7%)
総人口	83,398	79,394	58,471

石岡市の人口と自然動態・社会動態について



人口の増減は、自然動態と社会動態によって生じています。
 自然動態…出生や死亡による人口の増減
 社会動態…転入や転出による人口の増減
 現在の石岡市では、自然動態、社会動態の両方ともが、マイナスとなっています。

出典:総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

石岡市の自然動態・社会動態について

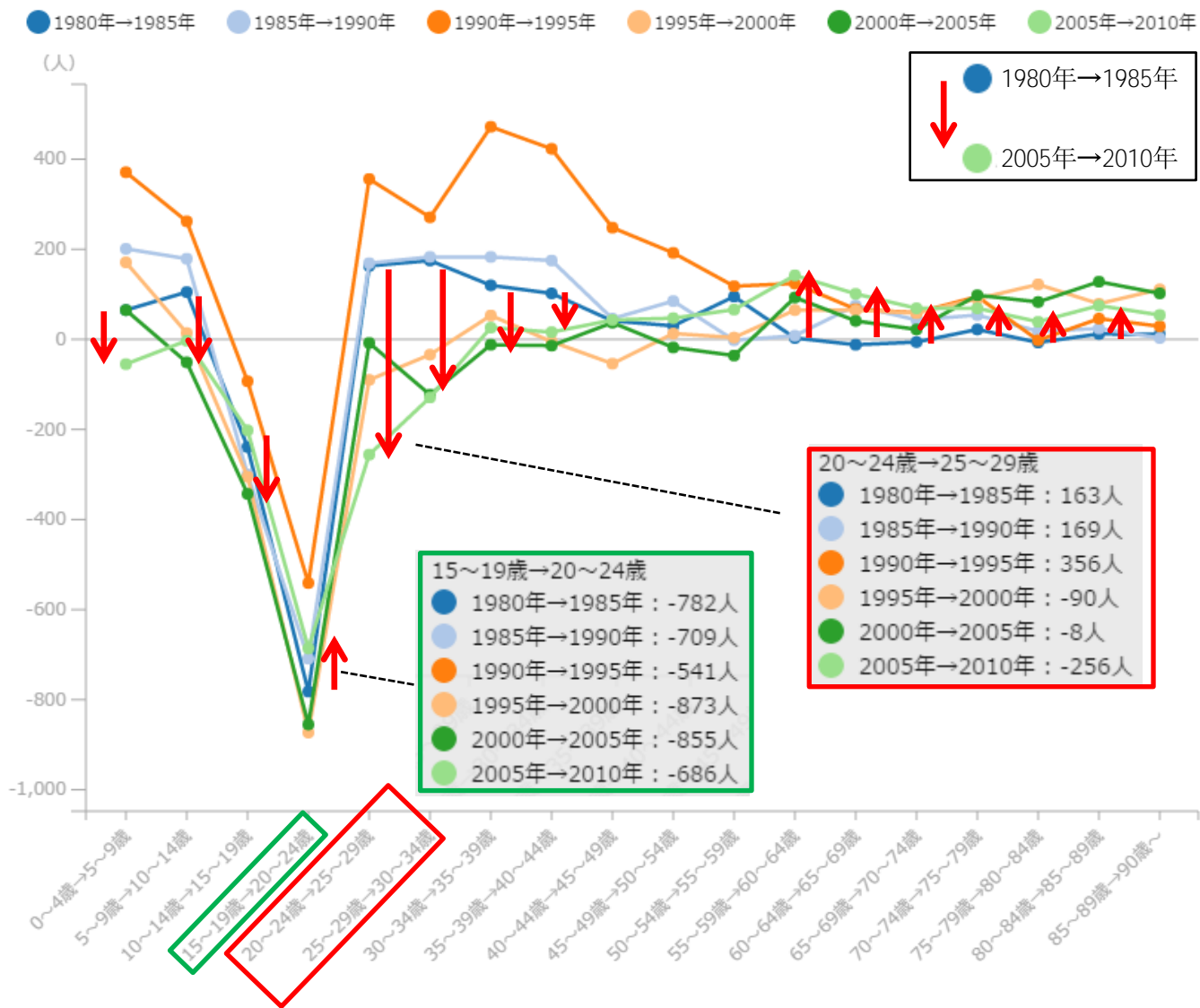


1995年当時は、人口の自然動態・社会動態の両方がプラスとなっており、人口の増加が生じていました。

自然動態は2005年からマイナスに転じ、年々減少数が大きくなっています。

社会動態は2000年頃からマイナスに転じています。

石岡市年齢階級別純移動数の時系列分析



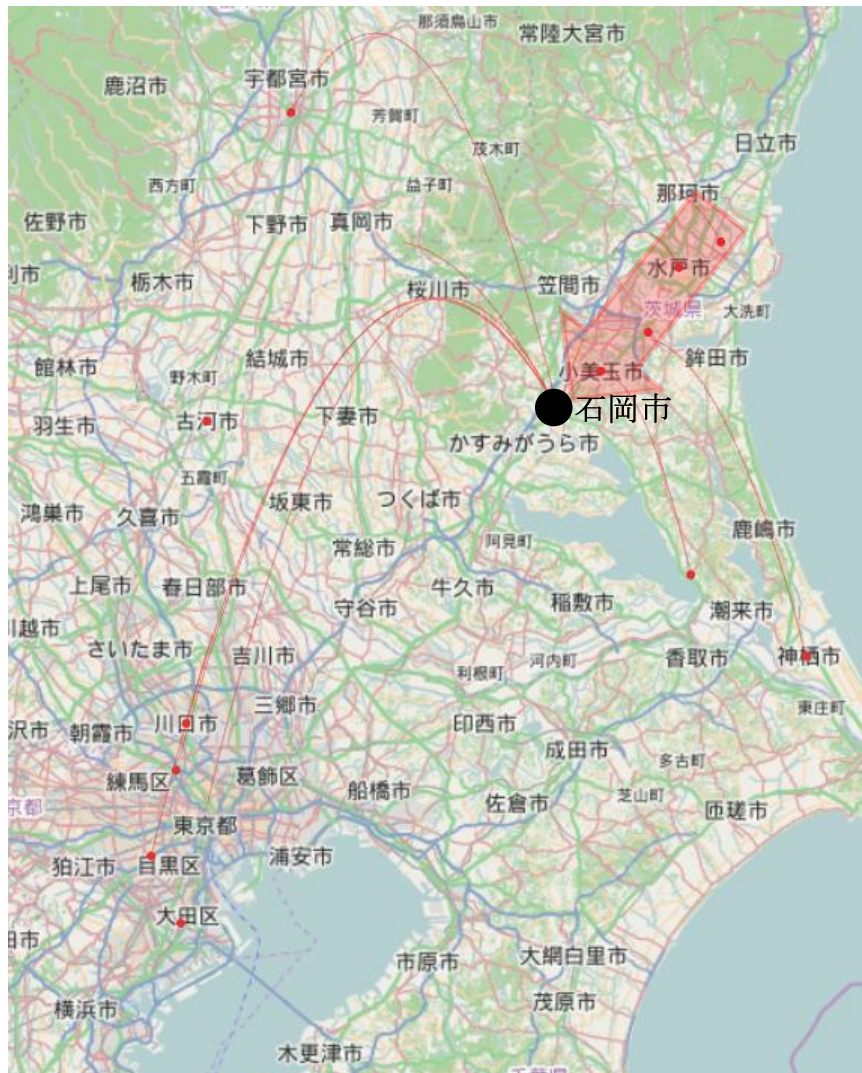
年齢別の人口移動では、**15-19歳の方が20-24歳になる間に大きく減少**しています。

これは、15-19歳の年代で、5年の間に転出する方が多いことを示しています。

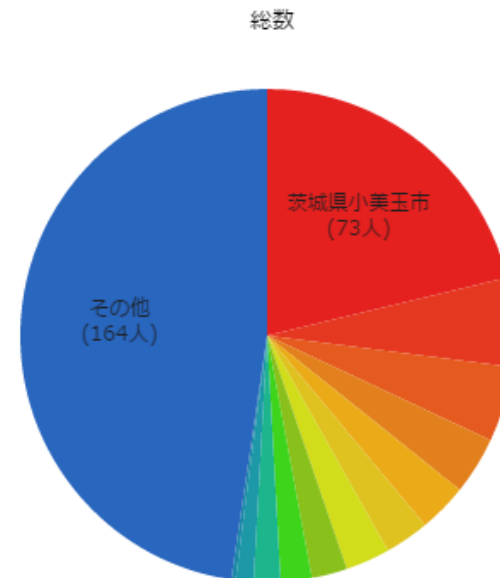
また、1980年と2005年と比較すると**20-24、25-29の年代**で大きな違いが見られています。**1980年代は、転入超過であったが、1995→2000年から転出超過**となっています。

石岡市の社会動態(転入超過)について

転入超過マップ(2014年)



転入超過数内訳

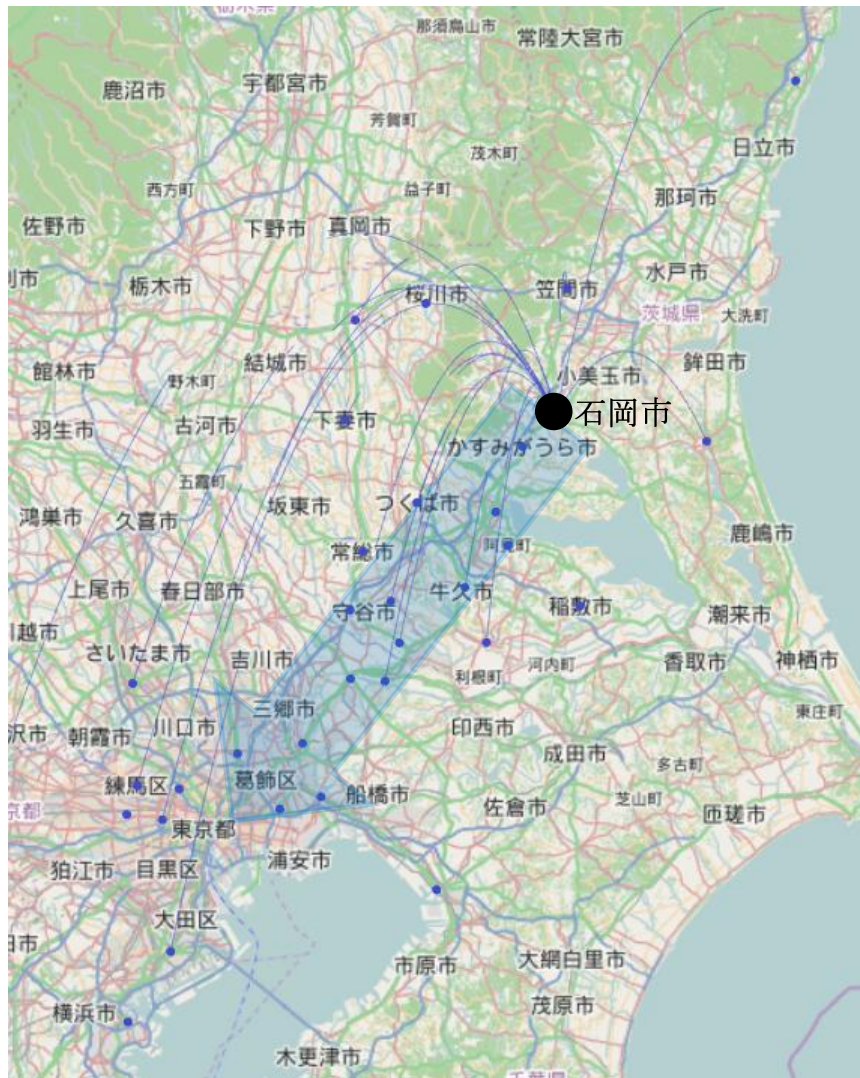


- 1位 茨城県小美玉市 73人 (21.2%)
- 2位 茨城県水戸市 20人 (5.8%)
- 3位 東京都板橋区 17人 (4.9%)
- 4位 茨城県ひたちなか市 13人 (3.8%)
- 5位 埼玉県川口市 11人 (3.2%)
- 6位 茨城県茨城町 10人 (2.9%)
- 7位 茨城県古河市 10人 (2.9%)
- 8位 栃木県宇都宮市 8人 (2.3%)
- 9位 東京都大田区 7人 (2%)
- 10位 東京都世田谷区 6人 (1.7%)

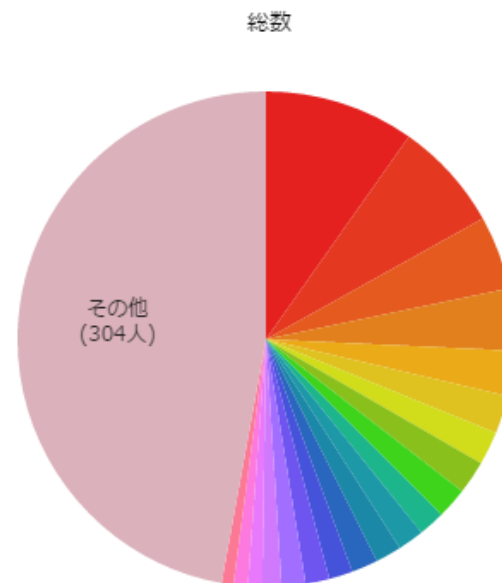
※ 小美玉市 2012年まで転出超過 → 2013年より転入超過

石岡市の社会動態(転出超過)について

転出超過マップ(2014年)

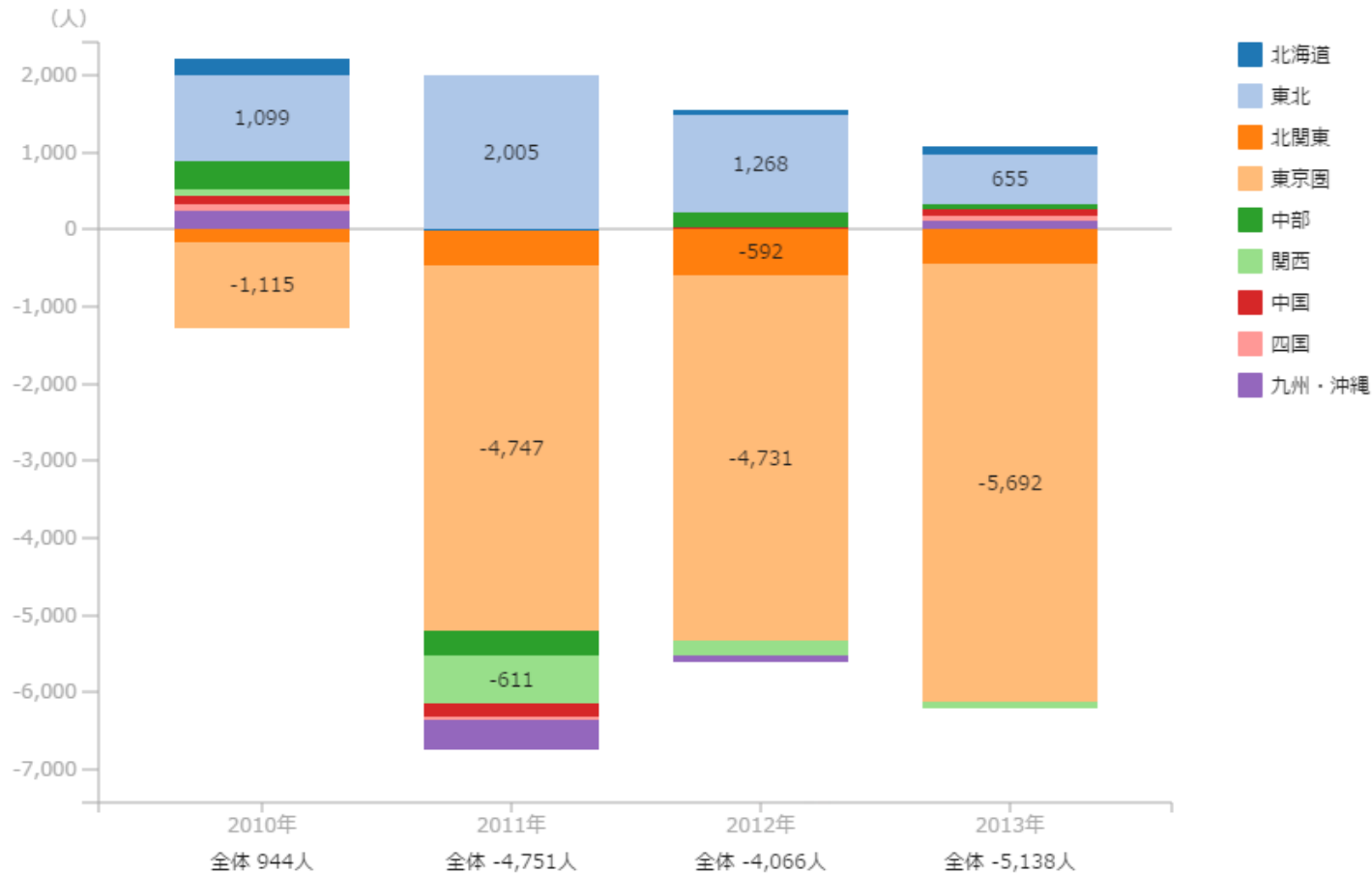


転出超過数内訳



- 総数
- 1位 茨城県土浦市 63人 (9.8%)
 - 2位 茨城県つくば市 46人 (7.1%)
 - 3位 茨城県牛久市 31人 (4.8%)
 - 4位 茨城県笠間市 26人 (4%)
 - 5位 神奈川県平塚市 19人 (2.9%)
 - 6位 東京都練馬区 16人 (2.5%)
 - 7位 東京都江戸川区 14人 (2.2%)
 - 8位 千葉県市川市 14人 (2.2%)
 - 9位 茨城県守谷市 13人 (2%)
 - 10位 東京都新宿区 11人 (1.7%)

茨城県地域ブロック別純移動者数

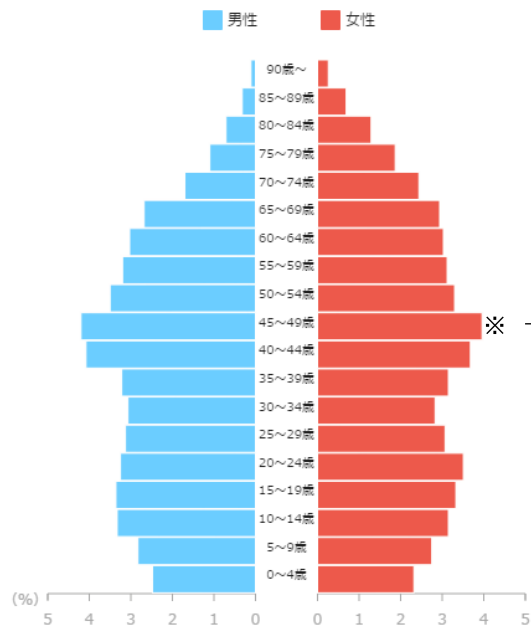


茨城県の地域ブロック別純移動者数では、**東北から人が流入し、東京圏へ流出**している状況が分かります。

また、東北から流入する人口よりも東京圏へ流出する人口が大きく、2011年からは大きなマイナスになっています。

石岡市の人口ピラミッドについて

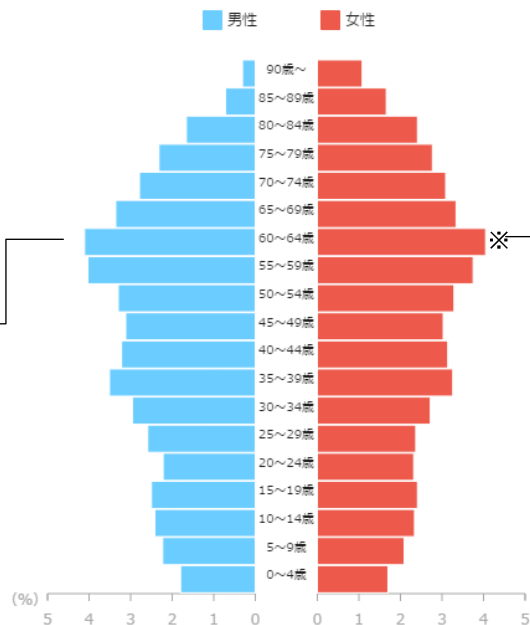
1995年



老年人口（65歳以上）：13,435人（16%）
 生産年齢人口（15歳～64歳）：55,892人（67%）
 年少人口（0歳～14歳）：14,071人（16%）

総人口 83,398人

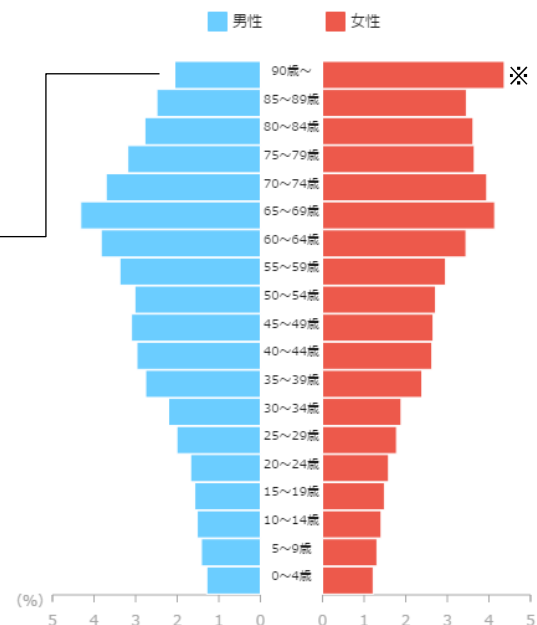
2010年



老年人口（65歳以上）：20,249人（25%）
 生産年齢人口（15歳～64歳）：49,156人（61%）
 年少人口（0歳～14歳）：9,989人（12%）

総人口 79,394人

2040年



老年人口（65歳以上）：24,409人（41%）
 生産年齢人口（15歳～64歳）：29,290人（50%）
 年少人口（0歳～14歳）：4,772人（8%）

総人口 58,471人

1995年では、老年人口と年少人口の割合は、同程度であったが、2010年では老年人口が年少人口の2倍となっています。2040年には、老年人口が年少人口の5倍となる見込みです。

また、老年人口と生産年齢人口の比率については、1995年では老年人口層の1人を生産年齢層4.16人で支えていたものが、2040年では1.2人で支える状況になる見込みです。

人口減少・少子高齢化とともに生じる課題

経済規模(消費支出)の縮小

定住人口一人当たりの消費支出(生活するうえで必要となる家計の支出)は平均で約 125 万円/年となっています。(総務省統計局家計調査)

2010年 消費支出 79,394人 × 約 125 万円/年 = 約992億4250万円

2040年 消費支出 58,471人 × 約 125 万円/年 = 約730億8875万円

26%減

約262億円の経済規模の縮小が見込まれます。
(参考:石岡市の平成27年度当初予算一般会計315億円)

※ 経済規模の縮小による, 仕事の減少 → さらなる人口減少の危険性

※ 税収の低下 → ICTを活用した効果的な行政サービスへの転換, コンパクトシティ等の推進の必要性

公共施設の再配置の必要性

人口の減少により, 学校などの公共施設の適正な配置が必要となります。また, 下水道や水道などの生活インフラの維持にかかる人口一人当たりの費用が増加していきます。

2010年 5歳~14歳人口 7,211人(実績値)

2040年 5歳~14歳人口 3,304人(推計値)

小学校19校 ⇒ ?
中学校 6校 ⇒ ?

5歳~14歳人口が30年間で2分の1以下になる見込みです。
充実した教育環境を守るため, 学校施設の適正な配置が必要となります。

これらは, 現状の人口推移が継続した場合に見込まれることの一部です。

石岡市人口ビジョン・総合戦略の策定

皆が誇れる「ふるさと石岡」を再生し、将来に引き継いでいくため、人口減少に歯止めをかけるとともに、到来する超少子高齢化・小人口社会に対する備えをしていくことが必要。

国・県の人口ビジョンを勘案

(仮称)石岡市人口ビジョンの策定

長期的な人口推移を見据え、人口の減少により生じる問題を明らかにする。そのうえで、**将来の目標人口**を設定し、目標に向けた政策方針を決定。

国・県の総合戦略を勘案

(仮称)石岡市総合戦略の策定

人口ビジョンの達成のため、2019年までの**5ヵ年間の総合戦略**を策定する。効果的な施策立案のため、ビックデータを活用した検討と、適切な目標設定。

H27先行実施事業(資料2別紙)

地方創生交付金を活用した効果的かつオンリーワンの施策の実施

総合戦略の実行にあたり、地方創生交付金を活用した事業展開を図る。また、PDCAサイクルを活用した、事業の適切な見直しを実施していく。